

- ▶ **こんなむごい！！非人道の原爆投下！**
上に書きましたように悲しい物語です。
- ▶ **新国立競技場建設無責任体制の全容**
私としては全容解明ができたと思っています。
安倍さんの下村大臣に責任を取らせない作戦はうまくいくでしょうか？
- ▶ **火花？花火？**
話題の芥川賞作品の書評もどきです。
- ▶ **シベリア抑留記「生きて帰って来た男」**
親子コンビででき上がった名著です。
一読をお勧めします。
- ▶ **インダストリー4.0の衝撃！ドイツが製造業の覇権を狙う！**
ドイツの脅威その1です。
- ▶ **「ドイツ帝国が世界を破滅させる」ですって！！**
ドイツの脅威その2です。
放っておいていいのでしょうか？
- ▶ **新事業創造支援者を育成しませんか！**
本当に育成できるのですよ！！



【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 原爆がどれだけ悲惨なものかを再確認していただきます。
- 悲しい物語を心に留めていただきます。
- その人たちのご冥福を祈りましょう。
- 平和ボケを少し反省しましょう！！

ねらい：

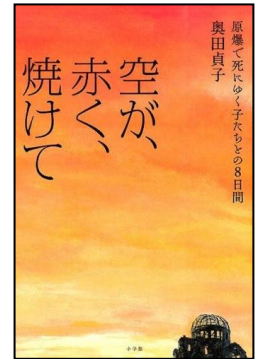
- この本を読んでみられますか？
- 戦争反対はともかくとして、原爆反対は貫きましょう！！

タイトルの非人道という言葉は、非人道的を超えて、本当に人間の道に反するという事で使っています。

奥田貞子さんが書かれた「空が、赤く、焼けて」のご紹介です。

奥田さんは31歳の時に、原爆投下直後の広島を訪ねて本当に痛ましい体験をされました。この本は、その時の日記が基になっています。

この本をこうして私たちが読めるのは奇跡に近いのです。おそらく、これだけの原爆被害見聞録は他にないでしょうね。



1. 健康で元気な状態で、原爆投下直後に広島を訪れたこと

奥田さんは当時、広島から60キロほど離れた瀬戸内海の島に住んでいました。親しくしていた甥と姪を探しに広島に入りました。広島で難を逃れた叔父の家に泊まり8日間原爆の町を探し回りました。

2. 奥田さんが丁寧に日記を書いていたこと

見聞した内容を書きとめるという習慣があたりだったのですね。

3. 原爆症にならずに生き延びられたこと

広島で被爆しなくても直後に被爆地に入った人も原爆症になっています。奥田さんが原爆症にならずにすんだのは、泊っていた叔父が薬局を営んでいて、奥田さんに元気をつけるために毎日ビタミンCなどの注射をしました。

奥田さんは、この注射のおかげで原爆症にならずにすんだのではないかと書いておられます。奥田さんは96歳まで生を全うされました。

4. この日記を捨てなかったこと

奥田さんが書いておられますが、あまりにも痛ましいこのことを忘れたくて、何度もこの日記を捨てようと思ったようです。

5. 34年を経た時に、初版「ほのぐらい灯心を消すことなく」を出されたこと

「戦争を知らない若い人に、1人でも多くの人に戦争とはいかに無残なものか知ってほしい」という思いからでした。

奥田さんは、戦後山形県の基督教独立学園高等学校の先生でした。生徒たちに原爆体験を話したことがきっかけになり父兄の方の尽力で冊子として出版されました。

6. 「空が、赤く、焼けて」が出版されたこと

2011年、学園の方々を最後を迎える奥田さんのために同書を蘇らせようと第4版が作られました。その第4版を基に、小学館がこの本を刊行したのです。

これだけのことがあって、今私たちは、本当に痛ましい「現場」を知ることができるのです。

本書にはいくつもの悲惨な子どもたちの最後が描かれています。私が最も心にこたえた1編の抜粋を以下にご紹介します。奥田さんが8日後に島に戻ってからの話です。

なお、奥田さんが探していた甥と姪は、たまたま原爆投下時、広島市内を離れていて無事でした。2人は、甥と姪の家の焼け跡においた奥田さんのメモを見て奥田さんが逗留していた叔父の家にやってきて再会できたのです。

ルミちゃん一家は、終戦の前の年の寒い日に、都会からここ、瀬戸内海のミカン畑に囲まれた村に疎開して来た。いつもはとっっても平和な村だったのに、ルミちゃんが来た頃はこの村も大変だった。

特に疎開してきた人は、この村になじめなかったようだった。

ルミちゃんのお父さんとお母さんは、8月5日の朝早く、お船で広島に出かけた。「ルミ、お利口にしてるんだよ。一つだけ泊ったら帰って来るからネ」

翌日も、その次の日も、またその次の日も、ルミちゃんのお父さんとお母さんは帰って来なかった。

それで、ルミちゃんの叔父さんは、ルミちゃんを連れて広島に探しに行き、4日間、ルミちゃんをおんぶして歩き回ったけれど会えなかった。2人は疲れ果てて島に帰って来た。

3歳のルミちゃんは毎日毎日お船の見える浜辺に出て、お父さん、お母さんを待ち続けた。

1人ポツンと浜の石に腰かけて海をながめているルミちゃんを見ると、かわいそうで、かわいそうで、私はいつも一緒に泣いてしまった。

「ルミちゃん、こんにちは」と私が声をかけると、ルミちゃんは黙ったままふり返り、「一つだけ泊ったら帰って来るって言ったのに」とポツンと言う。

あとは私が何を言っても、口を開こうとはしなかった。

雨の日は、破れた小さなかさを両手でしっかり持って、風の日には、手ぬぐいで頬かむりをしてもらって、相変わらずルミちゃんは遠くの海をながめては、ため息をついていた。

私が小さな座布団を持って行って、「ルミちゃん、この上に腰かけたら」と言っても見向きもしないで、一つだけ泊まったら帰って来るといったのに、と寂しそうにつぶやくばかり。

いつも夕方になると、叔父さんが、「さあルミ帰ろう、ルミはまだここにいたのか」と言っても肩車にのせて連れて帰る。それまでは、誰が何といても、一歩も動こうとはしなかった。

黄色いリボンをつけ、カスリのモンペをはいたかわいいルミちゃん。かわいそうに、来る日も来る日も浜に出てお船を待っていた。

広島から帰って三、四日たった朝、ルミちゃんのリボンを手に持って、お帽子をかぶっていた。

私が、「あーら、ルミちゃん、今日はお帽子なの。かわいいお帽子ネ」と言ってもルミちゃんの隣に座って顔をのぞいたら、ルミちゃんは、黙ってそーっと帽子をぬいで私の方に向いた。

アッ！いつの間に、こんなあわれな頭になったのだろう。黒かったルミちゃんの髪が抜けて、やわらかい白い肌が出ている。あまりの不気味さに、私は思わず、「マァー」と、声が出た。

しばらくたってルミちゃんは言った。

「ルミの髪が病気になったから、今日からリボンやめて、お帽子かぶりなさい、って叔父ちゃんが言ったの。だから、リボンは手に持ってるの。ルミのお母さんが作ってくれたんだもの。ルミ、このおリボン大好きだもん」

と悲しそうな顔で私の方を見た。

「そう、髪がよくなったら、私がもう一つリボン作ってあげる。そして、二つつけると、お人形さんのようなルミちゃんになるわ。たくさん、たくさん、ごはん食べないと、よくなるのよ」

私がそう言うと、にっこり笑って、「ハイ」といいお返事だったが、また海の方をながめて

「一つだけ泊まったら帰って来るって言ったのに」と、涙をうかべて訴える。

ああ、こんなにも、「一つだけ泊まったら」って待っているのに、ルミちゃんのお父さんお母さんはどうして帰って来ないのだろうと、私もついうらみごとを言うてしまう。

(中略)

ルミちゃんは、あのいたいたい姿で、来る日も来る日も浜に出て、一人ポツンと、何時間も海をながめて、お父さんお母さんを待つ日が四、五日続いた。

お昼休みに私は浜に出て、「ルミちゃん元気？」と声をかけた。

相変わらず黙って私の顔をしばらく見つめ、涙をためた寂しい声で、
また「一つだけ泊ったら帰って来ると言ったのに」。

それだけ言うと海を見る。

私がどんなに話をしても聞いてはくれない。

ああ、この三歳の子どもにどのように言えばよいのか。
私もルミちゃんと同じように泣くしかない。

ルミちゃんの叔父さんは、私にこうおっしゃった。

「ルミの親たちがだめかもしれないということを、どうルミに言えばよいのか。いくら言っても、ルミには理解できないだろうし――」。

かわいそうに、夕べも、ルミはごはんも食べないで、
『叔父ちゃん、こんなにたくさん泊ったのに』と、
目に涙をいっぱいためて、小さな両方の手を僕の前に出されると、僕はルミを抱きしめて泣くしかないのです

そう言って涙をふこうともなさらぬ。

次の日、私は仕事の都合で浜に出なかった。

その次の日に浜に出たら、叔父さんに抱かれ、
二人で海をなかめていた。

「ルミちゃん」と言って横に座り、ルミちゃんの顔を見ておどろいた。

たった一日見なかっただけなのに、ルミちゃんのくちびるや顔は、かさかさになっていた。

「ルミちゃん、叔父ちゃんに抱っこされていいことネ」
って言うと、
「ルミねえー、赤いウンチが出たの、だから、叔父ちゃんが抱っこしてくれたの」と言って叔父さんの胸に頭をくっつけてしまった。

私は体中の血が凍るようだった。

髪の毛が抜け、血便が出るようになれば、もうルミちゃんは長く生きられないのではとおそろしさにふるえた。

急いで家に帰り、
家中を探して、赤い布でリボンを作って浜に走った。

叔父さんに抱かれたルミちゃんは、目をとじてもう海の方を見てはいなかった。

叔父さんはしっかりルミちゃんを抱いてうなだれていた。

「ルミちゃん、ほうら、おリボン作ってきたよ。
もう一つのリボンは？」と声をかけると、
しわくちゃんになったリボンを私の目の前に出した。

「二つになったネ」って言うと、目を少しあけて、
ニーツと笑った。

口の中が真っ赤だった。歯茎から血が出たのだ。

「ルミ、ありがとうは？」と叔父さんがおっしゃると、
小さな、小さな声で、「ア・リ・ガ・ト・ウ」
苦しうに、とぎれとぎれに言った。

叔父さんは、「ルミ、ルミは叔父ちゃんの宝物だよナ、
叔父ちゃんはルミが大好きだもんナ」
とかさかさになったルミちゃんの顔をそーっとなで、
いとおしんでいらっしやった。

それから二日後、ルミちゃんは叔父さんに抱かれ、
浜に出てお船を待ちながら、天国に召されて行った。

(中略)

1人寂しく暮らされていた叔父さんは、
いつ、どこへ行ったのか、誰も知らなかった。

それから半年くらいあとだったか、
叔父さんも亡くなられたらしい、と耳にした。

こんな酷(むご)いことがあっていいものでしょうか。
しばらく、

「一つだけ泊ったら帰って来ると言ったのに」という
ルミちゃんの声が耳について離れませんでした。

ルミちゃんと私の4歳の孫娘とが重なってくるのです。

ルミちゃんは天国ですぐにお父さん、お母さんに会えた
のでしょうか。会えたとすれば、この世に一人であるより
幸せだったでしょうね。

この本にはルミちゃんの話以外に
以下のような痛ましい子供たちが描かれています。

被曝して倒れた家の下敷きになって死んでいるお母さんの
近くで「お母さん、お母さん」と泣いている子供を助
けて、お母さんのところへ持って行ってあげると、
死んだお母さんの手を握って自分も死んでしまった3歳
の坊や。

家族と別れ別れになって小さな女の子が1人でとぼとぼ
歩いている。声をかけると「連れてって、連れてって」
と言うので叔父の家まで連れて帰って治療もしてあげた。
4歳だった。
でもその日のうちに、「お兄ちゃん、お兄ちゃん待つ
て！」と言いながら死んでしまった。

自分がもう動けないくらいの重傷なのに、ただ一人の家
族母親に、死ぬ間際まで
「お母さん、今日も学校に行けないから欠席届を出して」
と言った8歳の少年。
その後、そのお母さんもどこかに消えてしまった。

この本には全部で13の悲惨な出来事が記述されています。

原爆で死んだ人は、次の3種になるそうです。

1. 熱による火傷
 - 爆心地ではこれで助かった人はいないでしょう。
2. 爆風による倒壊物の下敷き
3. 放射能被害

前掲ルミちゃんのように、被爆していなくても高放射能状態の時にそこに近寄った人も「原爆症」になっています。

奥田さんのように8日間もまさに高放射能状態の場所に入っている人も何でもない人もいますので、不思議です。

こういうことを知ると、いかに今が幸せかを思い知らされます。また、つくづく人の運というものを感ずります。

- たまたま、広島市を離れていて難を逃れた奥田さんの甥と姪
- たまたま、広島に出かけて難に遭ったルミちゃんの両親
- 8日間爆心地近くを徘徊していても原爆症にならなかった奥田さん
- 3日間市内を探し回っただけで原爆症になってしまったルミちゃん

運命なののでしょうか。

広島では、原爆直後の死亡者だけで20万人以上です。それだけの人生があったのです。原爆はその生を一瞬にして奪ったのです。

とんでもないことです！！
残虐非道です。

やくざだって人の道（仁義）を弁えて堅気には手を出しません。戦争の仁義だってあったのです。

1899年万国平和会議で採択され、1907年に改訂されたハーグ陸戦条約25条では、こう言っています。

防守されていない都市、集落、住宅または建物は、いかなる手段によってもこれを攻撃または砲撃することはできない。

米国も日本もロシアもこの条約に調印しています。

この条約の強制力がどこまであるかは別として倫理的には民間人への攻撃は不可という認識はあったのです。人倫に反するということでしょう。

陸戦でなく空からの攻撃の場合は、戦闘基地を攻撃する際に誤って近隣の民間人に被害を及ぼす可能性はあるかもしれませんがから完全な徹底は難しいでしょう。

しかしながら、大戦末期の日常的な「空襲」は明らかに都市全体を攻撃しており、条約の人倫に反しています。

それとの比較で言えば50歩100歩だと言うのかもしれませんが、原爆は、単なる空襲とは異質です。逃げる暇を与えませんから。

言語道断でしょう！！

戦後日本の「戦争犯罪人」が裁かれましたが、最大の戦争犯罪人はアメリカの最高責任者です。

なぜ、世界はその犯罪を容認したのでしょうか。

それだけ日本という国は世界から見て、異質・異端・脅威・人間外だったのでしょか。

戦後日本は、米国を頼りにしていますが恩にきる必要はないと思います。日本のために、日本を守る、あるいは日本を助ける気など毛頭あるわけではないのです。

アメリカを守るために日本が必要だから、日本を守る、助ける、をしているだけです。それは当然なのです。

誰が自国以上に他国のことを構うものですか！
そのことはきちんと認識しておいた方がよいでしょう。

因みに、「家族という病」なんて言っている下重暁子さんにこういう家族愛を知っていただきたいですね。

555 新国立競技場建設の無責任体制の全容

No.83 2015年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 新国立競技場建設白紙還元問題の原因を究明します。
- 日本人の思考・行動体質を再確認します。

ねらい：

- これからどうあるべきか考えてください。

とんでもないことが起きてしまいましたね。

2,520億円の建設計画が白紙になったのは歓迎ですが、2年間の時間と労力が無駄になりました。



なぜこのようなことになったのか、私なりに解明してみました。（次頁参照）

（5月30日産経ニュース）

10月には政策中枢としてのスポーツ庁が発足する。同庁長官との役割分担も明確にすべきだ。

さしあたり担当相が「五輪の大会準備と運営の調整」にあたり、長官は「五輪の選手成績を含む競技力向上と振興、普及」の司令塔となる。

いたずらに船頭を増やして責任の所在があいまいになることは戒めたい。形式的な責任関係は明確でした。文部科学省からの一本線です。

文部科学省

日本スポーツ振興センター（JSC）

国立競技場将来構想有識者会議

新国立競技場基本構想国際デザイン競技審査委員会

新国立競技場建設の責任体制

組織	責任者名	権限・責任	コメント
政府（内閣）	安倍晋三総理大臣	行政上の全責任	
文部科学省	田中真紀子文部科学大臣 下村博文文部科学大臣	豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成、学術、スポーツおよび文化の振興並びに科学技術の総合的な振興を図る。	スポーツの振興が重要使命となっている。
日本スポーツ振興センター（JSC、文科省の外郭団体、独立行政法人）	河野一郎理事長 元筑波大学人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授	基本任務は保健体育の推進。国立競技場の運営も責任範囲。	東京五輪に関する実務面の遂行責任を負っている。
国立競技場将来構想有識者会議（JSCが設置）	委員長なし	新国立競技場のデザインコンペの実施決定、結果承認	当時の委員には石原都知事含む。安藤氏は石原氏が推薦したという説もある。
（JSC）新国立競技場基本構想国際デザイン競技審査委員会	委員長安藤忠雄	新国立競技場のデザインコンペの実施、審査結果決定	「自分達はデザインを決めただけだ」（安藤氏）
（JSC）新国立競技場基本構想国際デザイン競技技術調査	和田章総括管理（東京工大名誉教授、日本建築学会会長）他9人の分野別専門家	9/26～10/12の期間に、応募46作品の実現可能性を評価（○実現可能、△設計段階で重要な調整が必要、×明らかに実現不可能）	分野別専門家を網羅したのはよいが、こんな短期間に正当な評価をするのは困難だろう。
東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部（2015年6月25日設置）	首相が本部長（官房長官と五輪相が副本部長）	大会の円滑な準備や運営を行うための基本方針案を作る。	この体制編成を早期に実施すべきであった。
五輪担当大臣	遠藤利明大臣（元文部科学副大臣）	五輪相は文部科学省や国際行事を担う外務省など、複数の省庁にまたがる準備を統括する。	責任権限はあいまいのよう。欄外注参照。
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	森喜朗会長	JOCと東京都により2014年1月24日に設立され、JOC、東京都、政府、経済界、その他関係団体と共にオールジャパン体制の中心となり、大会の準備及び運営に関する事業を行う。	白紙になった競技場案が設定された時には存在していない（責任はない）。 「準備と運営」の範囲が不明確だが、JOCも東京都も競技の主権者・運営者であり競技場の利用者でしかない。

「なぜ今回の問題が起きたのか」はこうだと思われま

す。もしそういうことなら、そのことを明確に、有識者会議に答申すべきでした。

1. JSCがすべてを取り仕切った責任者

有識者会議、審査委員会、技術調査に著名人を集めて結果が信頼できる状況を作ったそれを「悪用」しました。（自分達も評価力がないのしょうから仕方ないですかね）

デザイン競技審査委員会の審議経緯を隠して未だに公表していません。

2. 有識者会議の無責任

有識者会議には大物を集めています。しかし、この人たちはお飾りで実質検討をしていません。審査委員会およびJSCが仕切った技術調査の結果を鵜呑みにしています。

状況がどうであれ、認めたのだから第3者に対して責任があります。

この審査委員会でも、実現可能性について異論が出たようでした。しかし、JSCはその経緯を公表していません。

最後は安藤さんが押し切ったようです。おそらく他の委員は、安藤さんが当時の石原都知事の支持があることで譲ったのでしょう。

第一、なぜザハの案を採用したのか疑問です。規模が要求を超えていて、予定する場所に収まらないのですよ！！

コストだって1,300億円程度という目安の提示はあったのです。それなのに1,600億円とかの概算を出しています。そんな案は失格でしょうに。

因みに、当初構想の 1,300 億円だって、これまでのオリンピックスタジアムの建設費からすると、高すぎです。

2000年	シドニー	約680億円
2004年	アテネ	約350億円
2008年	北京	約500億円
2012年	ロンドン	約800億円

安藤委員長の「強いインパクトを持って世界に日本の先進性を発信し優れた建築・環境技術をアピールする」にこだわって他の条件を無視しています。



現時点では、「周辺環境との調和」に関して批判があるようです。

本来このコンペの募集条件ではこう表示されています。

(1) 大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム
<ul style="list-style-type: none"> ● 国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す ● アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能スタジアムを目指す
(2) 観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム
<ul style="list-style-type: none"> ● 世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す ● 開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す
(3) 年間を通してにぎわいのあるスタジアム
<ul style="list-style-type: none"> ● コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す ● 各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す
(4) 人と環境にやさしいスタジアム
<ul style="list-style-type: none"> ● 最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す ● 震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す ● スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

挑戦は大事ですが、今の日本の財政事情も考慮すべきでしょう。

「安藤氏は、美術館の設計とかは実績豊富だが、スタジアムとかはあまり経験がない」という説もあります。だから、ザハ案のスタイルの斬新さだけで選定したのかもしれない。

4. JSCが委嘱した専門家の技術調査は形式的

非常な短期間でとても実質検討はできるものではありません。それでも有識者会議は、その専門家たちがお墨付きを与えていると思ってしまいました。(JSCの作戦です)

5. ザハの売名・無責任

斬新なデザインは結構ですが、敷地に入らない案だとか、

コスト条件を無視している案を提示するのは、相手をなめています。許せません。

なぜ誰がそんな傍若無人を許したのでしょうか。安藤さん、JSCの責任は重大です。

6. 最終的には文科相の責任

このザハ案の承認は、2012年11月15日田中真紀子文科相です。その後も長いのですから、現下村文科相の責任も避けられません。

下村文科相は教育に関しては見識があり、信頼できるのですが建築となると門外漢で判断に困ったのでしょうか。周辺には不安を漏らしていたようです。

そこを見て、安倍総理は新体制を編成されたのです。適切な判断です。

さて、要約すると直接責任は、この決定の仕掛けを作ったJSCの責任ですが、その役者たちが、自分の責任を全うせずに、「よろしいのではないのでしょうか」スタイルで臨んだことがこうなりました。

日本人の責任あいまい体質が最大原因なのです。それを「悪用」したJSCがワルです。それを見抜けなかった文科省の監督責任も大です。

と言うのが私の見立てです。「原因を究明しろ!!!」という野党・世論の声が大きいようですからいずれ、明らかになるのでしょうか。

しかし、日本人の体質から言えば、どこまでの究明ができるのでしょうか??

なお、これから再度コンペをして新しい案で出直しをするのですが、納期短縮のために、

「設計と施工を同一業者に一貫して委託しよう」という案もあるようです。

これは、建設業界で(情報サービス業界でも)、経験済みの問題方式です。
設計が済まなければ、見積りができませんから冒頭には全体の発注金額は決まりません。

そこで、施工も依頼する前提で、まずは設計を発注するのですが、受託者は施工も担当するとなると、完成時の製品品質を軽視して施工に都合のよい(あるいは施工金額を膨らませる)設計をする可能性があるのです。

そこで、第3者が時間をかけずに検証・チェックする仕組みを用意する必要があります。それがうまくいかないと、また問題が起きます。

今度は、そういうことを主張できる「有識者会議」を編成してほしいですね。



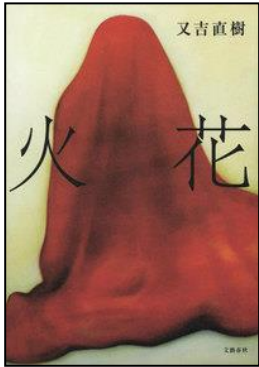
【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 私が小説に弱いことを知っていただきます。
- 又吉さんの「火花」のひねた感想の提示です。
- 過去の芥川賞の売れた実績をみていただきます。

ねらい：

- どれかを読んだ方は当時を思い出していただきます。



「お笑い芸人」が芥川賞をとったということで、評判になっていますので、どんなものかと思って読んでみました。

まともな？小説は若いとき以来、ほとんど読んだことがありません。

ですからまともな感想はとてもムリですが、敢えての感想です。

あらすじは、-----
主人公がお笑い芸人でパツとしなかったのですが、なんとなく売れてきて生活ができていて、先輩格の芸人がいて、その人は男気が強く能書きもたれる。

芸の指導を受けただけでなくずい分奢ってもらっていた。

ところがその人の方が売れなくて落ちぶれてしまった。それでも意気があるが空回りをしてしまっている。

主人公がなぜ売れだしたのかは描かれていません。「なぜか好き」の私としては欲求不満です。

何を読み取ればよいのだろうか？困りました。

主人公はたいした努力もしていないようなので、努力をすれば報われるという成功物語でもないし、先輩格の芸人については、口先だけではダメだ、ということを作者は言いたいのもなさそうだし。

そもそも芥川賞って何なのでしょう？調べてみました。

芥川賞は純文学の新人賞で、直木賞は大衆文学だとのこと。そのくらいは知っていました。

しかし、1956年の石原慎太郎さんの「太陽の季節」、宇能鴻一郎さん、遠藤周作さん、なども芥川賞だそうです。

因みに「太陽の季節」が人気を呼ぶまでは、芥川賞など文学賞が話題になることはなかったのですが、石原さんの貢献は非常に大きいようです。

この人たちの小説は理屈や心理的葛藤を綴るだけでなく、面白い内容で楽しめるものなのでしょうか？

そういう点からすると、やはり火花は面白くないですね。

芸人同士の争いで火花が散るというほどでもないし、最後のシーンで火花がでてくるので、そのせいもあるのでしょうか、

又吉さんのお母さんが「花火読んだよ」と電話をくれた、と本人がテレビで笑っていました。

花火をひっくり返して火花にしたという洒落でもないでしょうし。

花火はキレイだけど一瞬ではかないのに対して、火花は強くきついものだ、人生はそういうものだというのでしょうかね。

芸人の世界を描いたということで意味があったのでしょうか？現役の人気芸人が賞をもらったということで話題になり、歴代の芥川賞のなかでトップの売れ行きなのだそうです。

1位	柴田翔	されどわれらが日々	1964年	186万部
2位	又吉直樹	火花	2015年	169万部 7月末現在
3位	庄司薫	赤頭巾ちゃん気をつけて	1969年	160万部
4位	村上龍	限りなく透明に近いブルー	1976年	131万部 単行本のみ
5位	安部公房	壁	1951年	130万部
6位	綿矢りさ	蹴りたい背中	2003年	127万部
7位	池田満寿夫	エーゲ海に捧ぐ	1977年	126万部
8位	大江健三郎	使者の奢り・飼育	1958年	109万部
9位	石原慎太郎	太陽の季節	1955年	102万部

こうして見ると、本離れの昨今の情勢からすると、又吉さんの貢献は大ですね。

2000年代では個性的な女性性が話題になった綿矢さん以来なのですからね。

火花を買って最後まで読んだ人がどれだけいるかは疑問ですが、普段が本を買わない人が買ったのは確かですから審査員の思惑は大当たりだったのではないのでしょうか。

まともな書評ができなくてごめんなさい。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 名著「生きて帰って来た男」をご紹介します。
- シベリア抑留に関する情報を多少提供します。
- ソ連はこれまで思っていたほどワルではないことをお話しします。

ねらい：

- 「生きて帰って来た男」をいろんな意味で、読んでみてください。



小熊英二さん著「生きて帰って来た男」は主人公の生い立ちから、戦争、戦後のことを記述した壮大なドキュメンタリーです。

これは素晴らしい本です。

私は三つのことが心に残りました。

- シベリア抑留の事実
- 不当な司法判断
- 本人の素晴らしい記憶力、著者の文筆力

1. シベリア抑留の事実

飢えと過酷な労働と厳寒を乗り越えて帰国できたことは奇跡であるように言われてきました。

「生きて帰って来た男」という書名だということは、生きて帰ってくるのは希少だということです。

「生きて帰って来た男」は、著者小熊英二さんの実父小熊謙二さんです。小熊謙二さんは1925年（大正4年）北海道生まれでした。

私の叔父三田和夫もシベリアからの引揚者でした。叔父は1921年・大正10年生まれで、大正3年生まれの母とは7年違いでした。

昭和18年、北京大学医学部教授だった父が結核になり、一家5人は、世田谷にあった母の次兄の家に居候しました。

本書に登場する「人物」もずい分結核で亡くなっています。ご承知のように当時は不治の病でした。

その「居候」の頃、読売新聞社勤務を始めた和夫叔父もその家にいました。

私は5歳くらいだったと思いますが、その叔父を「トントンおじちゃん」と呼んでいたようです。叔父が2階に住んでいて階段をトントンと上り下りしたからです。

その叔父はその後戦争末期に応召したのでしょう。そして運悪くシベリア抑留のめに遭ってしまいました。

叔父から詳しくシベリア時代のことを聞いたことはありませんが、「よく生きて帰ってこれた」という印象は持っていました。

叔父の著書「最後の事件記者」をみても、シベリア時代の見聞録のようなことは書いてありますが、重労働で死ぬ思いをしたというようなことは書いてありません。

叔父はソ連のスパイにされそうになったこと、実際にスパイになって帰国した人がたくさんいたことなどが、叔父の他の著書「新宿慕情」に書いてありましたが、本題から外れますのでこれ以上は触れません。

叔父は、ソ連のスパイ活動を命を賭けて取材・スクープした「幻兵团事件」で一躍有名になりました。私はこの叔父にはずい分お世話になりました。

多くの日本国民はソ連はひどい国だという印象を持っています。

1945年8月9日、広島原爆投下で日本の敗戦が濃厚となったのを確認して、宣戦布告し一方的に進軍してきた、とされています。

たしかにそのとおりですが、ヨーロッパ戦線でドイツが5月8日に降伏しており、戦線を日本に向けたという面もあるのです。

敗戦直前の対ソ交渉において、日本政府や関東軍が捕虜の労務提供を申し出ていたという資料も発見されています。（シベリア抑留が起きたのは日本が悪いのではないか！！）

それと、当書の記事ですが、各国の捕虜等の死亡率が記載されています。

第2次大戦でドイツ軍の捕虜になったソ連軍の将兵570万人中前線での虐殺や悪待遇で200万人～300万人が死亡 死亡率6割 ドイツ最悪！！

ソ連軍の捕虜になったドイツ軍の将兵330万人中死亡者は100万人で死亡率は約3割

日本軍の捕虜になった英米軍の死亡率は27%、（日本軍もそんなに悪いのか！）

それに対してシベリア抑留の日本軍捕虜64万人中、死亡者は約6万人といわれ死亡率は約1割。

印象では半分くらいが死んだという感じでしたが、ずい分違うんですね。当書にも、思いやりあるソ連軍将校の言動が紹介されていました。（ソ連にもいい軍人がいるのだなー）

なぜシベリア抑留・ソ連の印象が悪いのでしょうか？

「暁に祈る」事件など、陰惨な状況があったという報告が事実を過大に歪曲したという面があったのでしょうか。

「暁に祈る」の死に至るリンチ事件があったのかどうかは、これまた朝日新聞の誤報説もあり定かではないようです。それと戦後の一貫した米国管理下にあつては、ソ連は悪者ですからね。

私は第2次大戦の日本の3大悲劇は、

1. 沖縄を含む南洋・太平洋諸島での玉砕・敗戦
2. 広島・長崎の原爆
3. シベリア抑留

だと思ってきましたが、それほどでもなかったのですかね。

2. 不当な司法判断

戦後、紆余曲折あり、シベリア抑留者に対して「慰労金」を出した際に、国は日本人以外の請求を認めなかったのです。

戦争中、日本に併合された朝鮮や中国満州人が日本軍に徴兵されシベリア抑留のめにも遭っています。

ソ連軍の捕虜になった朝鮮人元日本兵は約1万名いたとされているようです。

ところが、当書の主人公も加担した韓国人らの損害賠償と国の公式謝罪の請求に対して、日本の裁判所は以下の理由で認めませんでした。

- 1) 損害賠償については「国民のひとしく受忍しなければならなかった戦争被害」だから補償できない。

日本政府は、国民に対しては戦時補償は一切行わないという方針を貫いてきました。

「戦争の被害は、国民が等しく受忍すべきものである」という考えからです。

しかし、韓国人など外国人の場合はひとしく受忍しなければならない国民に該当するのでしょうか。

その後もその人たちに日本国籍を認めていないのですよ！！この論理はおかしいです。

答えありきの司法判断は情けないですね。

頭が悪すぎます。

- 2) 公式陳謝の要求については「立法府の裁量的判断である」と判決しました。これはそうかもしれません。

3. 本人の素晴らしい記憶力、著者の文筆力

本書の記述の確からしさ、文章の素晴らしさにはビックリです。

著者小熊英二さんはシベリア抑留の当事者のご子息で、著者が父上謙二さんから聞き取りをした内容が本書の内容になっています。

謙二さんは引き上げ後、職を転々としたあと、スポーツ用品店を経営しそれなりの生活ができるころまで成功されました。

そのご子息英二さんは東大農学部を卒業され、東大大学院総合文化研究科国際社会科学専攻で博士課程を修了されています。現在は慶応大学の総合政策学部の教授です。

謙二さんもそれだけの潜在能力をお持ちの方なのです。

シベリア時代のことを記憶だけを頼りに英二さんに対して語り部になっているのですから。

ここでは詳しくご紹介しませんが、戦前戦中戦後の生々しい「事実」が記述されています。

その一つは、ご長男を不慮の事故で亡くされたことです。会社の慰安旅行に奥様（英二さんの母親）と英二さんが同行し、その間に高校受験で同行しなかった長男（英二さんの兄）が武蔵村山市の2階建自宅屋上から転落して意識を失い、厳寒の2月だったために凍死してしまったのです。

奥様はしばらく鬱状態になられたようですが、ご本人はこういうことにもめげずに立ち直られています。死に目に遭った人は強いな、と感じるものです。

20歳前後は記憶力がピークなのですが、それを最近まで覚えている記憶ぶりには脱帽です。驚嘆です。

謙二さんは19歳の徴兵検査時には、第2乙種合格の「虚弱児」だったのですが、90歳でご健在です。

この本は結構長編ものですが、たいへん読み易くまた、整理もよくされていて最近読んだ本の中では記述法は最高です。

558

インダストリー4.0の衝撃！ドイツが製造業の覇権を狙う！

No.83 2015年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- インダストリー4.0とは何かを知っていただきます。
- インダストリー4.0の重大な意義を確認していただきます。
- インダストリー4.0を支える人材の育成法を知っていただきます。

ねらい：

- 日本はどうすべきかを考えましょう！！

最近のICT活用技術は目覚ましい進歩を遂げ、あらゆるビジネスのあり方が変わっていきようとしています。

今まで目についているのは、

- ネットを通じての売買（アマゾンや楽天）
- 情報流通（グーグル、SNS）
- スマホ・GPSを活用した各種案内
- ビッグデータ・過去実績を活用した販促

など主に消費者向け（B2C）の世界でしたが、B2Bのビジネスの世界でビジネスへのICT活用が本格化しようとしています。

その波にうまく乗ろうという動きが世界中で始まっています。ドイツは、それを製造業の世界で実現しようとしています。それが、インダストリー4.0（第4次産業革命）です。第4次産業革命と言いますが、これまではどうなっているのでしょうか。

産業革命の世代とリーダー

	内容	リーダー
第1次産業革命	18世紀英国に始まった蒸気機関の利用による機械化	イギリス
第2次産業革命	20世紀初頭に始まった電気エネルギーを活用したフォードのベルトコンベア方式に代表される大量生産方式	アメリカ
第3次産業革命	1970年代に始まったコンピュータ・電子技術（工業用ロボット等）の活用による生産自動化	日本
第4次産業革命	工場内外の生産設備・製品・人間が相互につながるIoT産業革命	ドイツ？ アメリカ？ 日本？

ドイツは、製造業の覇権を目指しているのだから、産業革命と言っていますが、この第4次は、もはや産業の革命ではありません。

第3次のトヨタのシステムも企業間連携システムでしたが、人間が繋いでいるシステムでした。

それに対して、第4次産業革命は、モノとモノは当然として、企業間も完全に自動でつなごうという考えです。

その結果、第4次の特長は、マスカスタマイゼーション（個別受注生産でありながら、自動化大量生産方式を実現する方式）なのです。

ドイツは、下表のように今でも製造業分野で強みを発揮していますが、ICT技術で急激に変化していく環境変化の中でトップ企業の位置を確固たるものにしようということなのです。

世界ランクのドイツ製造業

業界	ドイツの代表企業	世界シェア
自動車	フォルクスワーゲン	1位を争っている
重電	シーメンス	2位
化学	BASF	1位
医薬	バイエル	2位

以下の表は、2015年5月に刊行された日経BPMック「まるわかりインダストリー4.0 第4次産業革命」の内容を編集したものです。

ドイツは官民一体でこれに取り組んでいるのです！！

1. インダストリー4.0の「目的・ねらい」

(1) 目的

- インダストリー4.0は、ドイツの製造業が**事業競争力強化**を目的に打ち出したコンセプトである。
- 生産工程のデジタル化・自動化・バーチャル化のレベルを現在より大幅に高めることによりコストの極小化を目指す。
- スマート工場（自ら考える工場）の実現

(2) ねらい

- ドイツは、狭い国土・大きくない国内市場（人口8000万人）・高い労働力（高福祉国家）であるため、高付加価値製品に特化する必要がある。
- 現在は東欧の安い労働力を利用している。生産工程の徹底的自動化によって**製造業の脱労働力依存**を実現するのがねらいである。

- **スマートビジネス先進国の米国**（アマゾン、グーグル、フェイスブック）に対抗することもねらい。それを自国が強い製造業で実現する。

2. インダストリー4.0の内容

- 工場内外の生産設備や製品、人間が相互に繋がり、「考える工場」を実現する。

3. インダストリー4.0の対象範囲

- 産業革命と言っているが、この革命は工場内に留まらない。サプライチェーンを通じて消費者まで繋がる。
- それは、インダストリー4.0の主導者がSAP元社長であることからしても自然なことである。

4. インダストリー4.0の実現技術

1. ロボット
2. M2M（マシントウマシン。部品や素材にもセンサを持たせ、設備機器・システムと通信できる）
3. 3Dプリンター（この技術は第3次に属するものであるが、ニーズに合った迅速な試作の実現と材料費の削減にとって非常に重要な技術である）
4. IoT（センサー）
5. 人工知能

- その特徴は、サイバーシステムと物理的なシステムの融合体（CPS、Cyber Physical System）である。
- 「センサーや自ら考えるソフトウェア、機械や部品の情報蓄積能力、相互コミュニケーション能力によって生産工程を高度化する（カガーマン氏）
- ネットによって結合されたサプライチェーンを形成する企業はバーチャルクラスターを形成する。
- このサプライチェーンはほぼリアルタイムで自動化され最適化される（在庫→部品展開→部品発注→生産→移動→在庫補給→決済）
- 工場のあらゆる場所に設置されたセンサーが機械の異常やパフォーマンスの低下を検知し自動的に補修する。
- これらの技術の活用で、システムの統制が中央集権型から分散型へ移り作業の意思決定が飛躍的に早まる。

5. インダストリー4.0の開始時期

2009年

- ドイツ連邦教育省は「生産プロセスのデジタル化は個々の企業が進めているが横の連携が撮れていないと標準化が進んでいない」とアピールした。

2011年

- ハノーバーメッセで、経済界、連邦政府、学会の代表が官民一体で研究開発プロジェクトを始める共同声明を発表。その中で初めてイノベーション4.0という言葉を使用した。

6. インダストリー4.0の創始者・推進者

- ドイツはインダストリー4.0に官民一体となって取り組んでいる。ドイツ製造業の主力企業はすべて参加している。
- ドイツ技術科学アカデミーの会長ヘンニヒ・カガーマン氏（元SAP社長）が立役者
- シーメンスがフォルクスワーゲンと組んでスマート自動車工場を開発中。
- ボッシュではこういうシステムが動いている。

1. Bluetooth 端末から「従業員」の情報を「生産ライン」に送る。
2. 「製品」がRFID（ICタグ）で、自分の組み立ててほしい姿を「生産ライン」に送る。
3. 「従業員」のスキルや属性、組み立てる製品の種類に合わせて「生産ライン」が変化する。

米国はインダストリー4.0 と言っていないですが、GE、シスコシステムズ、インテル、AT&T が 2014 年 4 月にインダストリアル・インターネット・コンソーシアム (I I C) 」を立ち上げました。

現在米国が強い ICT 活用を B 2 C から B 2 B まで広げようという目的です。

GE のイメルト CEO は日経新聞のインタビューに応じてこう言っています (日経新聞 2015 年 7 月 18 日) 。

選択と集中で金融ビジネスを縮小し (約 30 兆円売却) 製造業を強化する、という発言のあとこう述べています。

この内容は、本項で言うインダストリー 4.0 の本質を簡潔に言い得ています。

過去 20 年間、デジタル革命は主に消費者向けインターネットの分野がけん引してきた。企業で言えば、アマゾン・ドット・コム、グーグルなどだ。

しかし、今後 10~20 年で、産業の世界にデジタル化による変革の波が本格的に訪れる。

GE はデジタル化により、強みを持つ産業分野の「能力の拡張」を目指している。具体的には生産性の向上だ。

我々が提唱している「インダストリアル・インターネット」は産業機器をネットワークで結ぶことで、資産効率を高めることができる。

競合はシーメンスや日立製作所だけでなく、ソフトウェアやベンチャーなどあらゆる企業に広がる。

GE は接続産業企業 (connected industrial company) を目指す。

リアルとデジタルの交差点に立ってデジタル化と同時に製造業をさらに進化させ、新たな時代で勝利する。

中国では「インターネット・プラス」と言って力を入れています。

日本も負けじと経済産業省が、先進的 IT 活用を促進しようという意図で「攻めの IT 経営銘柄」を選定しました。

<http://www.meti.go.jp/press/2015/05/20150526003/20150526003-2.pdf>

ところが、応募企業が少なく、それほど先進的ではない事例も含めてようやく 18 社になったという状況です。

この 18 社の中では、小松製作所の「建設機械にセンサーを組み込み保守サービスを高度化」した事例が先進性でダントツです。

アメリカの GE のようなリーダーシップある企業がないとすると、ドイツにならって官民一体の取り組みをもっと進めないといけなんでしょうか。

ほんとうに何とかしないとイケません！！

そこで、その一助になると思われるインダストリー 4.0 を支える人材、より具体的には ICT を活用した新事業の企画のできる人材の画期的育成法を開発しました。

そこで用いる手法等は既存の練れたものです。別項「新事業創造支援者を育成しませんか」をご参照ください。
http://uenorio.blogspot.jp/2015/08/blog-post_3.html

559 「ドイツ帝国が世界を破滅させる」ですって！！
No.83 2015 年 8 月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ドイツがここ 5 年ほどでたいへんな力を付けてきたことを知っていただきます。
- ドイツは、ロシアと対抗しアメリカとも覇を争う形勢にあることを知っていただきます。
- ドイツに対抗するにはアメリカとロシアが組むしかないという意見を知っていただきます。ぜそんなにドイツが強いのかを考えていただきます。んな情勢の中で日本や中国はどうなるのかを考えていただきます。

ねらい：

- ドイツの動きに注目していきましょう。
- 日本がどうすべきかを考えていただきます。

凄いです。目を見開かされました。われわれはヨーロッパに関心が薄いんですね。

著者が中国に関心が薄いのと同様です。

この著者のエマニュエル・トッド氏はフランスの歴史人口学者・家族人類学者だそうです。その観点の研究から以下の「大事件」を予測した方です。



事件	予告	実際
ソ連の崩壊	1976年	1991年
世界金融危機 リーマンショック	2002年	2008年
アラブの春	2007年	2010年～

件名に挙げた書名は、誰が付けたのか知りませんが、本の中ではそういうことは言っていない。言うなら「ドイツ帝国が世界を制覇する」でしょうね。

本書の解説は多岐に亘っていますが、私なりに整理をしますと以下のようになります。

1. ドイツがどれだけ強いのか
2. ドイツの軍備
3. ドイツの危険性
4. ドイツが強い理由
5. フランスはどうか
6. ロシアはどうか
7. アメリカはどうか
8. 中国はどうか
9. 日本との対比
10. これからの予測

以下、氏の主張をご紹介します。

以下で、氏の文章は私の意見と区別するために「デアル調」にしています。原文ではインタビュー記事を文章化したということもあり、「デスマス調」が基本です。

1. ドイツがどれだけ強いのか

- 1) ここ5年の間に、ドイツが経済的な、また政治的な面で、ヨーロッパ大陸のコントロール権を握った。
- 2) その5年を経た今、ヨーロッパは既にロシアと潜在的戦争状態に入っている。

そしてドイツ政府はかなり前から経済運営に関するアメリカの諫言を意に介さぬ態度をとっている。

アメリカの力を排除しようとしている。因みに経済の世界でのドイツ企業の強さはこうなっています。

世界ランクのドイツ企業

業界	ドイツの代表企業	世界シェア
自動車	フォルクスワーゲン	1位を争っている
重電	シーメンス	2位
化学	BASF	1位
医薬	バイエル	2位
ソフトウェア	SAP	4位 (注)

(注) マイクロソフト、オラクル、IBMに次ぐ。

最近合意したイラン核協議では、安保理常任理事国以外で唯一ドイツが参加しています。常任理事国にならなくても、「実力」でその地位を確保しているのです。

ドイツの産業界が取り組んでいる競争力強化の動きについては、別項「インダストリー4.0 第4次産業革命とは」をご覧ください。

2. ドイツの軍備

エマニュエル氏の著書では、なぜかドイツの軍事力については触れていません。

そこで、歴史音痴の私が別途確認したところによればこうなっていました。

- 1) ドイツも日本と同じように第2次大戦後、武装解除されました。
- 2) しかし、東西冷戦の進展と共に、西側諸国は、西側の武力強化のために（ご都合主義ですね！！）

1955年のパリ協定で、西ドイツの再軍備と主権回復を認めました。

ついでにもう一つの敗戦国イタリアも仲間入りしました。

パリ協定の当事者は、米、英、仏、独です。米英仏で決めればよい問題だったのでしょかね？

- 3) 当初は歴史的敵対国フランスはドイツの再軍備には反対していました。

1948年の西ヨーロッパ連合条約の目的でも「ドイツ軍国主義の再現の阻止」が、「共産圏（ソ連・東欧）からの武力侵攻に対する防衛」と並んで入っていたのです。

しかし朝鮮戦争等でソ連の脅威が現実になってきたので、賛成に回りました。

- 4) ドイツはNATO加盟を前提に再軍備を認められましたが、ABC規制が課せられました。

それは、A原子力、B細菌兵器、C化学兵器の使用禁止です。

- 5) 一般兵役義務法も1956年には成立しています。ずい分日本とは違いますね。

因みにドイツはこれまでに59回憲法（基本法）の改正を行っています。

3. ドイツの危険性

「力を持つと非合理的に行動する」

ドイツの権威主義的文化は、ドイツの指導者たちが支配的立場に立つとき彼らに固有の精神的不安定性を生み出す。

歴史的に確認できるとおり、支配的状況にあるとき彼らはしばしば、みんなにとって平和でリーズナブルな未来を構想することができなくなる。

この傾向が今日、輸出への偏執として再浮上してきている。

毎週のように、ドイツの態度のラディカル化が確認されるのが現状だ。

イギリス人に対する、またアメリカ人に対する軽蔑、メルケルが臆面もなくキエフを訪れたこと（14年8月）

自分たちが一番強いと感じるときには、ドイツ人たちは、より弱い者による服従を受け入れることが非常に不得意だ。

しかし、ドイツ的なタイプの規律ある上下関係は、なかなか通用しないだろう。

アングロサクソンの社会文化は、平等的ではないが本当に自由主義的だ。平等かどうかは場合による。

最近の危機は、全面的にウクライナへのヨーロッパの介入と関係している。

近年「西側」のメディアはあたかも1956年頃、つまり熱くなりかねない冷戦の最中に戻ったかのような様相を呈しているが、そのうわ言に引きずられず、発生している現象の地理的現実を観察するならば、ごく単純に、紛争が起こっているのは昔からドイツとロシアが衝突してきたゾーンだということに気づく。

ウクライナ危機がどのように決着するかは分かっていない。

しかし、ウクライナ危機以後に身を置いて見る努力が必要だ。

最も興味深いのは「西側」の勝利が生み出すものを想像してみることである。

そうすると、われわれは驚くべき事態に立ち至る。もしロシアが崩れたら、あるいは譲歩しただけでも、ウクライナまで拡がるドイツシステムとアメリカとの間の人口と産業の上での力の不均衡が拡大して、おそらく西洋世界の重心の大きな変更に、そしてアメリカシステムの崩壊に行き着くだろう。

アメリカが最も恐れなければいけないのは今日、ロシアの崩壊なのである。
(なるほど、そうなのか！上野)

ドイツ帝国が「支配者たちのデモクラシー」の一般的な形を取り始めていて、その中心には支配者たち専用のドイツデモクラシーがあり、その周りに、多かれ少なかれ支配されていて、その国での投票行動には何らの重要性もないような、諸国民のヒエラルキーが形成されている。

自分たちの生活に影響する政治上の決定に対してドイツ国民でない周辺国の国民たちはまったく投票権を持っていない。

そういう意味で（周辺国民は）アメリカにおける黒人たちよりもみじめな位置づけなのである。

4. ドイツが強い理由

この項は主として上野としての意見と紹介文です。

ドイツはEUという自由貿易圏という枠組みを活用して、ヨーロッパの中で圧倒的強みを発揮しだしています。

自由貿易では、強いものが勝ちます。ギリシャのような怠け者の国は敗者となるのです。そういう面ではフランスや南欧諸国も同様です。

その意味では、TPPも同様です。 関税などの輸入障壁がなくなれば、強いものが必ず勝つのです。

EUはドイツの発案ではなく、また当初はフランスはじめの国も、ドイツの1人勝ちになるとは誰も予想しなかったようです。

なぜドイツは強いのでしょうか。著者は以下の点しか挙げていません。

家父長制で、統制を聞く国民性がある。	→	行きすぎた「個人自由・主義」ではない。
質儉を厭わない国民性がある。	→	デフレ・賃金抑制を受け入れる。

ドイツではここ数年、賃金が据え置かれたり、引き下げられたりしています。

ドイツの社会文化には、権威主義的なメカニズムがあって、国民が相対的な低賃金を甘受するので、ドイツの政府と経済界はその面を活用し、ユーロ圏の各国への輸出を政治的に優先したのです。

「アテネからマドリードまで、群衆は第4帝国（ヒトラーは第3帝国）だと叫び始めている」

私が見るに、ドイツの強みには以下が追加されると思います。

ユダヤ人(や日本人)と同じように民族の潜在能力の平均的レベルが高い。
これはドイツ国民自身もそう思っているらしい。
2014年のフリードリッヒ財団の調査では「ドイツ人は他の民族より優れている」と思っている国民が4割となっていた。

攻撃的・ポジティブな性格である。
(日本人はそんなに攻撃的・ポジティブではないですね)

以下がエマニュエル氏の主張です。

「ドイツというシステム」は、驚異的なエネルギーを生み出し得る。日本についても、スウェーデン、ユダヤについても、同じことが言える。

真の権力中枢はメルケルでなくドイツ経済界である。彼らは隣国フランスの産業をボコボコにしてしまおうとしている。それにはまだあと4年かかる。

5. フランスはどうか

歴史的にドイツの対抗馬であったフランスは、現在は完全にドイツの軍門に下っている。

フランスのオランド大統領はドイツの副首相だ。今後はさらに単なる「ドイツ首相府広報局長」とみなしてもいいくらいだ。

第2次世界大戦の地政学的教訓があるとすれば、それはまさに、フランスがドイツを制御しえないということである。

ドイツが持つ組織力と経済的規律の途轍もない質の高さを、そしてそれにも劣らないくらいに途轍もない政治的・非合理性のポテンシャルがドイツには潜んでいることを、われわれは認めなければならない。

ところがそれをこの国（フランス）は認めない。

6. ロシアはどうか

ロシアは現在力の蓄積中でクリミア半島でも強くは出れない。

しかし、ロシアは立ち直り始めていて、出生率の上昇や乳児死亡率の低下、失業率の低下にそれは表れている。

ロシアの成長率は1.4%、失業率は5.5%である。

ロシアの経済は豊富な地下資源に支えられていて、労働力を必要とする工業を迎えたり、消費財の輸出産業を発展させたりということは考えにくい。

その社会では、ソ連時代から継承された高い教育水準が保たれていて、男子よりも女子のほうが多く進学している。

また人口の流出よりも流入の方が多いことから、ロシア社会とその文化が、周辺の国々の人々にとって魅力的なのだということが分かる。

私はそれを「権威主義的デモクラシー」と称する。

早晚軍事力等でも成果が顕著になるはずである。

アメリカとロシアの新たなパートナーシップこそ、われわれ人類が「世界的無秩序」の中に沈没することが、現実となる可能性が日々増大している事態を回避するための鍵だろうと思う。

7. アメリカはどうか

アメリカとドイツは同じ価値観を共有していない。

アメリカ	リベラルな民主主義の国 本当に自由主義だが結果として平等ではない。
ドイツ	権威主義的で不平等な文化の国 規律ある上下関係(平等ではない)

アメリカは白人デモクラシー(だった)
ドイツはドイツ民族至上主義(ナチスがその典型)

アメリカはドイツに追随してクリミア半島に介入した。

注:日本人も「西側」メディアの尻馬に乗る日本メディアの影響で悪者はロシアと思いきまされています。

ブレジンスキーが見落としたのは、アメリカの軍事力がNATOをバルト海諸国やポーランドや、かつての共産圏諸国にまで拡大することにより、ドイツにまるまる一つの帝国を用意したということだ。

つまり、アメリカが自分のためと思って強化した仕掛けに便乗してドイツはタダで強くなることができたのだ、と言っているのです。

アメリカとドイツという二つのブロックは、それぞれの性質上対立的だということを認識しなくてはならない。

この二つのブロックの間には、経済規模の均衡の破綻、価値観の違いなど、紛争を生みやすいすべての要素が積み重なっている。

ロシアが潰されるか、あるいは周縁化されて、ゲームの外に排除されるのが早ければ早いほど、この二つのブロックの間の差異が表面化してくるだろう。

今後の世界情勢に関するもう一つのシナリオは、ロシア・中国・インドが大陸でブロックを成し、欧米・西洋ブロックに対抗するというものである。

しかし、このユーラシア大陸ブロックは、日本を考えなければ機能しないだろう。このブロックを西洋のテクノロジーのレベルに引き上げることができるのは日本だけだから。

(上野コメント:この案は成立しそうもないですね。インドが中国と組むことが考え難いし、日本だってそんなブロックに加担しないでしょう。しかし、ひょっとした

ら日本が中国の属国になっていれば、成り立つのかもしれないですね。ゾーッ!!)

8. 中国はどうか

中国についてはほとんど何も触れていません。ヨーロッパから見ると、アジアは他人事なのでしょう。

「中国はおそらく経済成長の瓦解と大きな危機の寸前にいます」という記述がありました。

9. 日本との対比

【ドイツと日本の類似性】

家族社会学で直系家族と呼ばれる家族形態がある。長男を後継ぎにし、長男の家族を両親と同居させ、他の兄弟姉妹を長男の下位に位置づける農村の家族システムである。

この種の家族はたしかに今ではもはや先進国に存在しないが、それでも、長年の間に培った権威、不平等、規律といった諸価値を、つまり、あらゆる形におけるヒエラルキーを、現代の産業社会・ポスト産業社会に伝えた。

日本社会とドイツ社会は、元来の家族構造も類似している。経済面でも非常に類似している。産業力が遅く、貿易収支が黒字だということ。

【日独の差異】

日本の文化が他人を傷つけないようにする、遠慮するという願望に取りつかれているのに対し、ドイツ文化はむき出しの率直さを価値付けている。

この2国は世界で最も高齢化した人口の国である。人口構成の中央値が44歳である。フランスではそれが40歳である。

出生率は、フランスでは女性1名当たり2人だが、両国は、1.3人から1.4人の間で揺れ動いている。

出生率のこのような差の背景にはもちろん、女性の地位の差がある。フランスでは女性は仕事と子供の育児を両立させることができるが、ドイツや日本ではどちらかを選ばなければならないことが多い。

(人口社会学者の意見を尊重すべきです。女性の社会的地位の向上を図らないと出生率は上がらないということです)

ドイツに比べ、日本では権威がより分散的で、常に垂直的であるとは限らず、より懇懇でもある。

こういう記述もあります。

現在起こっている衝突が日本のロシアとの接近を停止させている。

ところが、エネルギー的、軍事的観点から見て、日本にとってロシアとの接近はまったく論理的なのであって、安倍首相が選択した新たな政治方針の重要な要素でもある。

10. これからの予測

このように書かれています。

ユーロは陥落する。
単一通貨には無理がある。自由貿易は諸国民間の穏やかな商取引であるかのように語られるが、実際にはすべての国のすべての国に対する経済戦争の布告なのだ。

強者は勝ち弱者は負けて低いレベルの生活に甘んじなければならぬ。それはイヤだろうから（現在のスペインがその状態）、ユーロからの離脱をし、保護貿易に戻るのである。それが現実的な解である。

まさにそう理解すべきでしょう。
ユーロ崩壊こそが自然な道なのです。

さあ、もう少し世界のことを考えましょう！！



560 新事業創造支援者を育成しませんか！

No.83 2015年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ICTを活用した新事業の創造・開発を行う方法とその支援を行う人材の育成法を知っていただきます。

ねらい：

- この方法をご検討の上、ご採用ください。
- そうすると、その人材をすぐに育成でき、新事業のネタを見つけることができます。

インダストリー4.0、経済産業省の「攻めのIT経営銘柄」など、最新のICT技術（デジタル技術という人もいます）を活用して新しいビジネスを創造しようという動きが本格化してきました。

しかし、それを担う人材はなかなかいません。
従来のIT屋さんとは、アプローチが違うので、その人たちはダメ、と言われていました。

ではどうすればよいのでしょうか？

その解をシステム企画研修社が既存の手法を組み合わせで開発しました。

事業部の新事業創造の支援ができる人をBCKickerと名付け（Business Creation Kicker）、以下のプロセスで新事業創造を行うのです。
正確には新事業のネタ構想までが対象です。

そのプロセスは以下のとおりです。

1 BCKicker 適性者の選定

弊社の『コンピテンシー系能力評価システム』を使い、適性者を探し出します。
BCKickerは、従来業務の経験は不問ですから、専門能力は評価せず、基礎能力だけで判定します。

したがって極端に言えば、適性があれば1年生でもいいのです。

2 先行事例の研究

既に世界中で100件以上の先行事例があります。
これを整理して学習します。この研修は新開発です。

3 新製品・サービスアイデアの創出

(株)Mと当社で開発し実用中である潜在能力を活用する「イメージ思考法」を利用してアイデア出しを行います。
この際、2.の先行事例の研究で学習した内容から潜在意識で有効なものを引き出すのです。

詳細は以下のURLをご参照ください。
<http://www.newspt.co.jp/data/mind-pd/bckicker.pdf>

お問い合わせをお待ちしています。
mind-pc@newspt.co.jp

